

Kyutech Innovation NEWS 2026

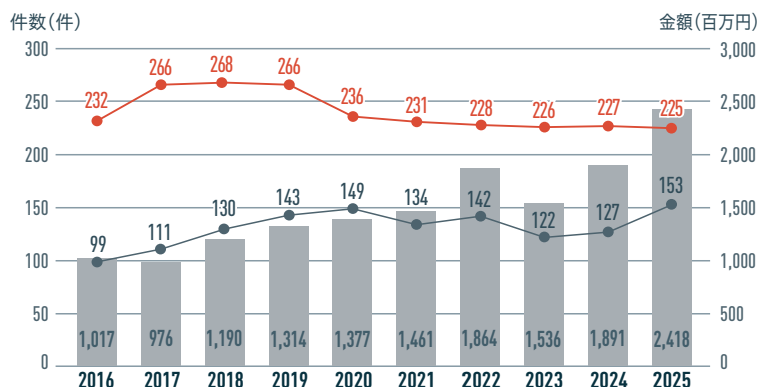
未来を思考する
「モノづくり」と「ひとづくり」



01 産学連携実績と 共同研究講座・社会連携講座等一覧

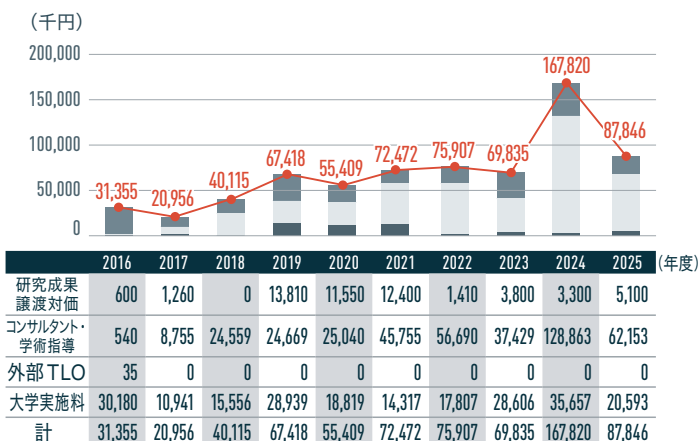
九州工業大学の共同研究・受託研究は、近年増加傾向であり、国内企業との共同研究に伴う研究者1人当たりの研究費受入額(2024年度)は、全国第10位で国内有数です。

共同研究・受託研究契約実績の推移

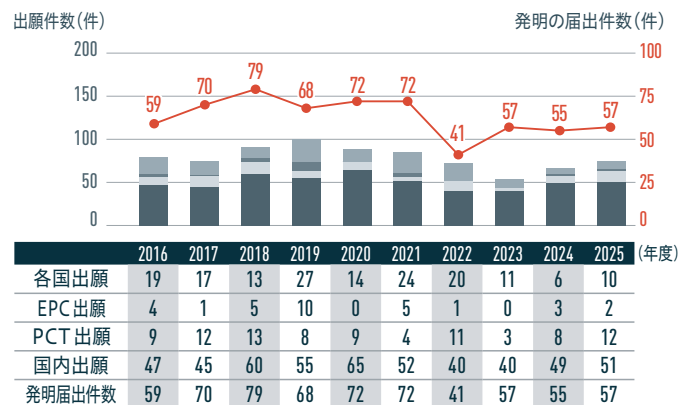


	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	(年度)
受入合計金額	1,017	976	1,190	1,314	1,377	1,461	1,864	1,536	1,891	2,418	
共同研究件数	232	266	268	266	236	231	228	226	227	225	
受託研究件数	99	111	130	143	149	134	142	122	127	153	

技術料等収入の推移



発明の届出と特許出願件数の推移



共同研究講座

講座名称	受入部局	設置期間
上野精機次世代先端技術共同研究講座	情報工学研究院	2022.04～2027.3(5年間)
GX材料デバイス研究講座 (九州工業大学・パナソニック インダストリー共同研究講座)	工学研究院	2023.01～2029.3(6年3か月)
SUMCO共同研究講座	生命体工学研究科	2023.12～2026.11(3年間 トータル9年間)
IoTシステム実装研究講座	工学研究院	2017.11～2027.3(9年5か月)
プラントライフサイクルエンジニアリング(PLE-TAKADA)講座	生命体工学研究科	2018.4～2027.3(9年間)

社会連携講座

講座名称	受入部局	設置期間
ブロックチェーン&AIスタートアップ支援講座	大学院情報工学研究院 電子情報通信工学研究系	2026.04.01～2029.03.31(3年間)
FPG大学発ベンチャー創業支援プログラム	研究本部 未来思考実証センター	2023.06.15～2028.03.31(4年10か月間)
企業経営システム部門	教育本部 生涯学習センター	2026.04.01～2029.03.31(3年間)

02 各研究センターの紹介

先端基幹研究センター

革新的宇宙利用実証センター

超小型衛星の開発とIoT・AI技術との融合、月・深宇宙探査、宇宙機の環境試験手法の高度化を通じて宇宙実証の迅速化と宇宙利用の多様化に取り組みます。



[センター長] 北村 健太郎
大学院工学研究院 宇宙システム工学研究系 教授
[HP] <https://kyutech-laseine.net/>

ネットワーク&スマートシステム研究センター

高信頼な情報ネットワークを基盤に、センシング、環境エネルギー、IoTシステム、AI・ソフトコンピューティング等を統合し、次世代スマート社会を支える技術創出を目指します。



[センター長] 松嶋 徹
大学院工学研究院 電気電子工学研究系 教授
[HP] <https://www.iotrc.kyutech.ac.jp/wp/>

ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター

脳型演算を駆使した低消費電力の次世代AIハードウェアを構築し、知的システムやAIロボットへの応用を推進します。



[センター長] 田中 啓文
大学院生命体工学研究科 生命体工学専攻 教授
[HP] <https://www.brain.kyutech.ac.jp/~neuro/>

未来社会ロボット実装センター

先端ロボット技術の社会実装と国際連携を通じ、世界的な研究拠点の構築を目指します。



[センター長] 西田 祐也
生命体工学研究科 人間知能システム工学 准教授
[HP] <https://www.lsse.kyutech.ac.jp/~socio robo/>

重点プロジェクトセンター

グリーンマテリアル研究センター

グリーンマテリアルに根ざした経済と環境の両立を通じて、炭素循環社会の形成に貢献します。



[センター長] 安藤 義人
大学院生命体工学研究科 生命体工学専攻 准教授
[HP] https://www.life.kyutech.ac.jp/~green_material/wp/

合成生物工学研究センター

合成生物学を通じて、生体内に存在する有用なバイオマテリアルの持続可能な生産を目指し、基礎研究と社会実装に向けた応用研究を推進します。



[センター長] 花田 耕介
大学院情報工学研究院 生命情報工学研究系 教授
[HP] http://labo.bio.kyutech.ac.jp/~kohanada/center/Kyutech_SBRC_Homepage/

ケアXDXセンター

介護・医療分野におけるDXとXDを融合し、ケアの質向上、現場支援、人材育成に資する研究を推進します。



[センター長] 井上 創造
大学院生命体工学研究科 生命体工学専攻 教授
[HP] <https://xdx.kyutech.ac.jp/>

超ワイドバンドギャップ・パワーエレクトロニクス研究センター

パワー半導体、パワーエレクトロニクス、モータ等の研究を通じ、次世代パワーエレクトロニクス技術の発展を目指します。



[センター長] 河野 洋志
大学院生命体工学研究科 生命体工学専攻 教授
[HP] <https://power.kyutech.ac.jp/>

研究連携プロジェクトセンター

次世代軟磁性材料社会実装推進センター

カーボンニュートラル実現に向け、超低損失磁性材料・機器の開発と社会実装を推進します。



[センター長] 本塚 智
大学院工学研究院 物質工学研究系 准教授
[HP] <https://www.kyutech.ac.jp/facilities/qtechinter.html>

バイオメディカルデバイス・イノベーション(BMDI)センター

健康寿命延伸に関わる医療課題の解決に向け、バイオメディカルデバイスの開発と関連技術の開拓を推進します。



[センター長] 高嶋 一登
大学院生命体工学研究科 生命体工学専攻 准教授
[HP] <https://www.lsse.kyutech.ac.jp/~bmdi/>

有機無機複合先端材料センター

有機材料、無機材料、混練・成型加工技術の融合により、極限環境下の使用にも耐える高機能複合材料の開発を目指します。

データサイエンス・AI研究センター

データサイエンスおよびAIの基盤となる情報技術の研究開発を推進し、学内外の多様な分野への展開を図ります。



[センター長] 齊藤 剛史
大学院情報工学研究院 知能情報工学研究系 教授
[HP] <https://sites.google.com/view/kyutech-dsai/>

まちとインフラ未来共創研究センター

社会インフラマネジメントのAI・DX、災害復旧・復興、防災・減災技術とまちづくりを柱に、都市や地域のレジリエンス向上に資する研究と実証を推進します。



[センター長] 重枝 未玲
大学院工学研究院 建設社会工学研究系 教授
[HP] <http://mirai.proj.kyutech.ac.jp/>

[センター長] 吉田 嘉晃
大学院工学研究院 物質工学研究系 准教授
[HP] <https://sites.google.com/view/cahm-kyutech/>



03 産学連携制度

企業のさまざまなご要望に対応するため、多様な産学連携制度を整備しています。



共同研究

企業の研究者と本学教員が共通課題について対等な立場で共同して研究を行います。



共同研究講座・社会連携講座

企業から資金・人材を受け入れて、大学内に拠点を設置します。教員と企業からの出向者が対等な立場で運営し、研究等を行います。



受託研究

企業からの委託によって本学教員が研究を行い、研究成果を企業に報告します。



学術コンサルティング

本学教員が専門知識に基づき、技術面等のコンサルティングや講習等を行います。

この最新理論を応用すると加工が可能になります



寄附金

企業や個人の篤志家などから学術研究や奨学を目的とした資金を受け入れます。



寄附講座・寄附研究部門

寄附者が希望する講座や研究部門を設置する制度で、外部から客員教授等を招いて教育研究活動が行われます。



■各制度の比較

	共同研究	共同研究講座	社会連携講座	受託研究	寄附講座
①知的財産権	共有可(※)		大学との協議による	大学に帰属	
②学内・学外PR	—	講座名に企業の名称使用可		—	講座名に企業の名称使用可
③連携する教員(九工大)	企業が希望する教員				大学側が招へいする教員
④企業からの派遣	●共同研究員(任意) ●研究料=月額35,000円	●共同研究講座等教員(必須) →特任(准)教授等の称号付与 ●民間等共同研究員(任意) →研究料=月額35,000円	●社会連携講座等教員(必須) →特任(准)教授等の称号付与 ●共同研究員(任意)	—	大学が招へいした教員 となった場合は可能
⑤運営/進め方	大学と企業が共同で実施	大学と企業が共同で運営(大学幹部が関与)		大学が実施	大学側が運営
⑥税制上の優遇	特別試験研究税額 控除制度	●増加試験研究費税額控除制度 ●特別試験研究税額控除制度	—	—	全額損金算入可
⑦間接経費等	直接経費の30%				共通経費として内数で10%相当
⑧効果	共同研究員が学位を 取得できる可能性	●大学リソースのフル活用 ●学生へのPR効果 ●企業研究者の派遣	●教員同士の連携 ●学位取得の可能性	手軽に研究成果を獲得	学生へのPR効果大
⑨留意点	企業も研究に 関与します	共同研究講座教員は大学が 雇用します。(人件費相当は研究 経費として計上していただき ます。また大学の職務規定 に基づき勤務いただきます。)	人材育成等を継続的に行う拠点を設置 いただきます。社会連携講座教員は大学 が雇用します。(人件費相当は講座経費 として計上していただきます。また大学の 職務規定に基づき勤務いただきます。)	—	寄附のため研究成果 は対価ではありません

(※) 協議の上、次の取扱いから選択できます。

① 本学と外部機関の貢献率により持分を定めて共有する取扱い ② 貢献率によらず持分を定めて両者が共有する又はいずれか一方の当事者が単独で保有する取扱い ③ いずれか一方の当事者の持分を他方の当事者に持分譲渡する取扱い

04 産学イノベーションセンター・未来思考実証センター 2025年度活動実績

●産学イノベーションセンターの活動実績 ●未来思考実証センターの活動実績 ●共通の活動実績

8月

イノベーションジャパン2025

産学官連携推進の一大展示会。本学の最先端研究成果を4件発信し、企業・投資家との新たなマッチング機会を創出。多数の来場者と活発な意見交換が行われた。



科研費申請支援セミナー

科研費獲得実績と審査員経験を有する本学教員による講演を実施し、科研費申請における工夫や留意点、審査の視点等について理解を深める機会を提供した。

9月

研究基盤協議会 JASIS 2025

分析・科学機器に関するアジア最大級の総合展示会で最新の技術動向や先進的な取り組みを学んだ。

九工大起業家コンテスト

若手人材の起業家精神を育成し、スタートアップを加速するためのビジネスコンテスト。一次書類審査をクリアした九工大生中心の15チームが挑戦し、学外の専門家による質疑応答・評価が行われた。



10月

Japan Mobility Show 2025

東京ビッグサイトにて開催され九工大からは4件の研究シーズを展示した。国内外から大きな注目を集め、会期中の来場者数は100万人を超える大盛況となった。

モノづくりフェア2025

研究成果の事業化を中心とした多様な取り組みについて、展示とセミナーを通じて広く紹介した。また、イベント内にて開催された「九州ロボットコンテスト2025モノづくりフェア杯」では九工大の学生プロジェクトが来場者数による投票で第1位に選ばれ、見事優勝を果たした。



11月

九工大未来テラス開所式

学生、研究者、企業等が連携し、新たな価値を創出する共創拠点として、戸畑キャンパスに「九工大未来テラス」が開所した。開所記念式典には産学官の関係者約110名が参加し、ディープテックの社会実装を推進する新たなイノベーション commons の門出を祝った。



11月

第25回 九州・大学発ベンチャービジネスプランコンテスト

本学チームがグランプリを含む複数の賞を受賞し、九州地方代表として全国大会へ出場した。

12月

新技術説明会

JST主催の新技術説明会に参加。発明者自身が企業関係者を対象に実用化を展望した技術説明を行うもので、2025年度は7名の教員が研究成果を発表した。当日は企業関係者に参加いただき、今後共同研究や技術移転などの産学連携活動への展開が期待される。

SPRING研究報告会

次世代研究者育成プログラムSPRINGの参加者による研究報告会。成果発表と活発な議論が展開された。



1月

CES 2026

米国ラスベガスで開催の世界最大テックイベントに参加。本学研究者が最新技術を国際舞台で積極的に発信した。



両センターが連携し、研究成果の社会実装とイノベーション創出を推進しています！



2月

オープン&クローズ戦略セミナー

経済産業省が実施するOCEANプロジェクトに関する講演、標準化・オープン&クローズ戦略や標準化活動の具体的な取り組み事例などを紹介した。

2月

キャンパスベンチャーグランプリ

キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で本学チームがビジネスプランを発表した。

PARKS Demo DAY 2026

九工大が主幹大学の一つとなっているPARKSが運営するギャップファンドに採択された技術シーズの事業化を目指す各チームが、これまでの活動成果として顧客検証の事業構想をビジネスピッチとして発表した。

PARKSアントレプレナーシップ教育プログラム MEET UP 2025 活動発表会

活動発表会では85名の方々に参加いただき、多様な教育プログラムや参加者の成長事例が共有され、アントレプレナーシップ教育の広がりや可能性を感じられる機会となった。



3月

学振特別研究員申請支援セミナー

日本学術振興会特別研究員採用を目指す学生等を対象に、外部講師による申請書の具体的な記載方法や作成のポイントに関する講演を実施した。

3月

起業支援セミナー

学内の起業支援制度を紹介し、起業への関心を高めるとともに、支援体制への理解を深めた。

起業家甲子園

本学チームが全国大会に出場し、パートナー企業特別賞(NEDO賞)を受賞。3年連続受賞の快挙を達成した。

WORK AND ROLE 2026

研究者・起業家・学生が登壇し、次世代の働き方を考える交流となった。イノベーション創出大学モデルの構築を目指す本学の取り組みも合わせて紹介した。



本学が保有している大型装置、分析機器、測定機器等は学外の方にも利用いただけます。
問い合わせ先、申し込み、使用料金等の詳細は次のURLを参照ください。

依頼測定を受け入れと装置一覧

<https://www.kyutech.ac.jp/research/request.html>



QRコードからも
アクセスできます。

戸畑キャンパス

機器分析センター

各種の高性能大型分析装置等により、
分析・測定及び解析等が行えます。

<https://www.kitcia.kyutech.ac.jp/>



飯塚キャンパス

マイクロ化総合技術センター

集積回路や半導体デバイスの設計・製造、評
価・観測が行えます。

<https://www.cms.kyutech.ac.jp/>



戸畑キャンパス

革新的宇宙利用実証センター

超小型衛星の開発に必要な振動実験、熱
真空実験、熱衝撃実験など様々な環境実
験、測定及び解析が行えます。

<https://kyutech-laseine.net/>



若松キャンパス

超ワイドバンドギャップ・ パワーエレクトロニクス研究センター

パワー半導体を中心とした様々な測定・分析
及び試験が行えます。

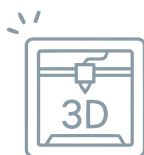
<https://power.kyutech.ac.jp>



戸畑キャンパス

未来デザインスタジオ

大学等の研究成果の社会実装に向け
て、3Dプリンター等を活用した試作等
を行います。



若松キャンパス

スマートライフケア共創工房

介護ロボットの研究開発における様々な計
測・評価を行います。また「すぐ創る課」が皆
様のニーズをお聞きます。

<https://slc3lab.jp/>



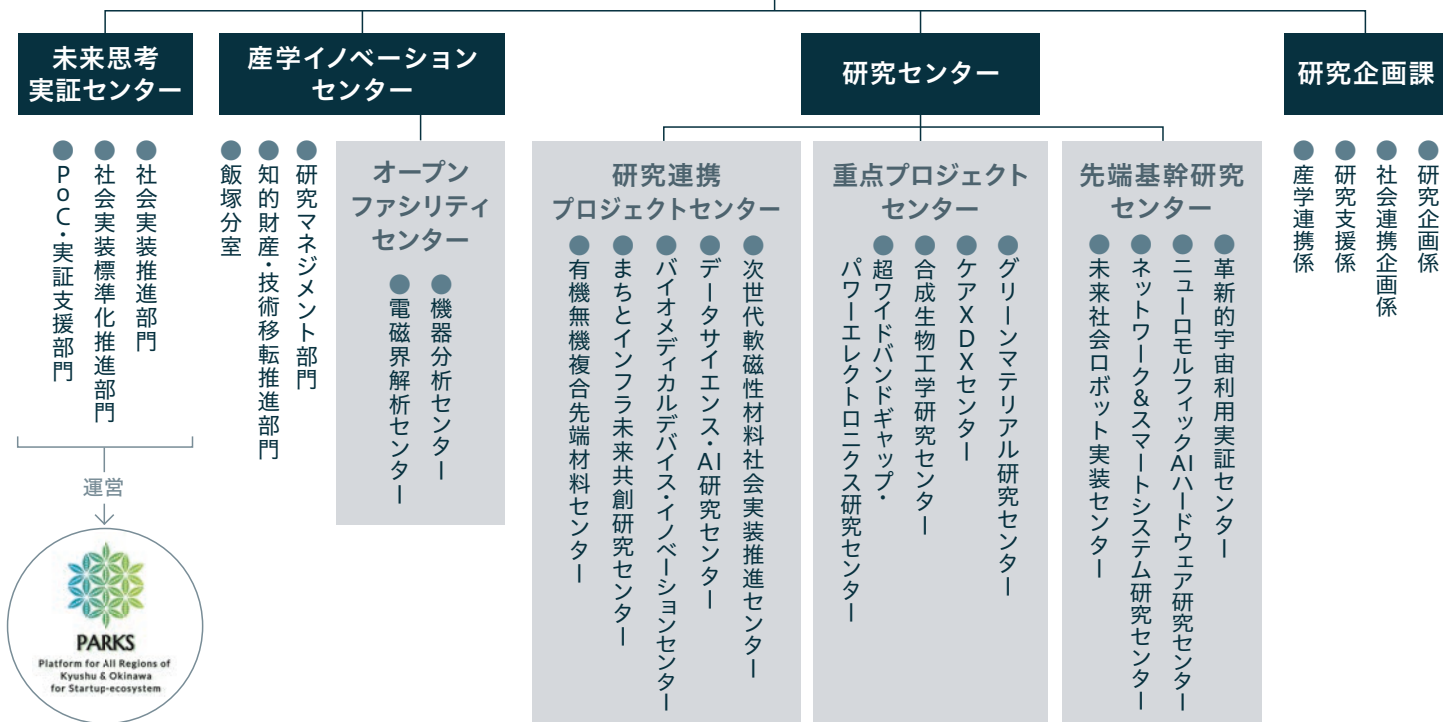
機器学外者利用 各センター設置機器以外

その他の貸し出し機器リスト、利用要項、申込書など。
<https://bap.jimu.kyutech.ac.jp/publishes/10/index/>



組織案内

研究本部



未来思考実証センター

未来思考実証センターは、革新的新原理を基にしたPoC開発、実証実験、それを活用したサービスモデル構築に加え、それらを社会実装可能とするためのルール整備（規制対応や標準化）までをシームレスに支援し、水中から宇宙まで地球規模で展開可能なロボット技術を皮切りに、九州工業大学が世界的に強みを持つ先端技術群の社会実装の推進を目指しています。

■社会実装推進部門

世界で活躍できる大学発のスタートアップの創出を推進するため、北九州市、九州・大学発ベンチャー振興会議、金融機関等と連携して、アントレプレナーシップ教育から起業支援までワンストップで取り組んでいます。

■社会実装標準化推進部門

学内外のディープテック技術を社会実装可能とするためのルール整備（規制対応・標準化）を支援するため、法規制対応・標準化を支援できる人材の学内外からの集積・整備に取り組んでいます。

■PoC・実証支援部門

学内外のディープテック技術を社会実装可能とするための「実証の場」となることを目指し、社会実装をできる人材と実証設備の学内外からの集積・整備に取り組んでいます。

産学イノベーションセンター

産学イノベーションセンターは、学内の研究支援から産学連携までワンストップで対応しています。若手研究者の連携支援、特徴的な研究活動を重点支援し、研究力を組織的に強化しています。企業等のニーズと大学のシーズのマッチングや産学官金の連携を推進し、学術研究の発展と地域社会の課題解決やイノベーション創出に向けた組織運営にも取り組みながら、地域社会や産業界への貢献を目指しています。

■オープンファシリティセンター

電子顕微鏡・NMR・質量分析など高性能大型分析機器や電波暗室を管理し、学内外の研究者・企業に高度な分析評価サービスと技術支援を提供します。

■研究マネジメント部門

学術研究の推進支援を核に、産学連携、社会実装に至るまでを一貫通貫でマネジメントしています。研究の場においては、中長期的な戦略に基づく研究拠点の高度化・大型化に取り組むとともに、外部資金獲得支援等、一人ひとりの研究者に寄り添う伴走型支援を推進しています。産学連携では、学術コンサルティング、共同研究、受託研究等の活動を、プロジェクトのフェーズに応じて企画・設計し、社会実装につなげています。さらに、研究推進の課題となる学内制度改革にも対応し、本学の研究環境整備に取り組めます。

■知的財産・技術移転推進部門

本学の新たな学術研究成果から、知的財産としての可能性を調査発見し、適切に保護を遂行し権利化を行っています。さらに、権利化した知的財産の技術移転にも積極的に関与し、本学シーズの活用を促進しています。

■飯塚分室

飯塚キャンパスにおける当センター業務を行っています。キャンパス間で連携し、産学官の取り組みを推進しています。

